

琉球大学開学 70 周年記念事業

琉球大学開学 70 周年記念事業は、国立大学法人琉球大学、公益財団法人琉球大学後援財団及び琉球大学同窓会の三者の協力により以下の事業を推進し、地域社会の発展に寄与していきます。

1. 琉球大学 GAP ファンドの設立 –大学発ベンチャー支援– 3,000 万円

GAP ファンドとは、大学が試作開発・試作テスト資金など比較的少額の開発資金を自律的かつ機動的に大学研究室へ供与して、大学の基礎研究と事業化の間に存在する GAP（空白・切れ目）を埋めることにより、大学先端技術の技術移転や大学発ベンチャー創出を促していく基金のことです。本事業において琉球大学 GAP ファンドを設立し、大学発ベンチャーによる大学の新しいアイデアや発明の実用化を図り、地域産業の振興と同時に長期的には大学の自主財源の確保に貢献いたします。

2. 地域連携企画展及び国際交流シンポジウムの開催 900 万円

これまでの地域連携事業、これからの教育・研究シーズの地域連携企画展 400 万円

琉球大学の長期ビジョンである「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」を達成するために、琉球大学 70 周年記念式典にあわせて「琉球大学：これまでの地域連携事業、これからの教育・研究シーズの地域連携企画展」を開催します。企画展では琉球大学の地域連携事業の成果を公開し、さらに教員による新たな教育・研究シーズの地域連携企画をパネル展示して、自治体や企業、市民団体の方々との連携を深めます。琉球大学の地域貢献型大学としての取り組みを具体的事例で披露することによって、更なる地域貢献を目指します。

琉球大学・アジア・太平洋地域 大学コンソーシアムシンポジウム 500 万円

もう一つの琉球大学の長期ビジョンは「アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点となる大学」です。地域そのものがグローバル化している昨今、これからの沖縄県の発展にはグローバルな視点が不可欠です。特に、島嶼地域の発展は世界を視野に入れた他地域との交流によって増幅します。沖縄県が東アジアの中心にあるという地理的特性を活かし、琉球大学は、教育と研究でアジア・太平洋地域の架け橋としての役割を果たします。アジア・太平洋地域から受け入れた留学生を琉大生とともに次世代のリーダーとなるべく教育するだけでなく、さらに、島嶼地域の共通課題の解決に向けた研究活動を強化します。グローバルな視点を取り入れた地域貢献と平和的な多文化共生社会の実現への第一歩として、琉球大学とアジア・太平洋地域の大学とのコンソーシアムシンポジウムを行います。

3 . 奨学・教育研究・国際交流奨励事業の拡充

4,000 万円

国立大学の法人化による運営費交付金の漸減は、大学の基本的な事業である教育・研究、学生支援、国際交流などの事業に影響を与えています。このような状況を踏まえて、公益財団法人琉球大学後援財団は、長きに亘り運営費交付金では賄えない学生への奨学事業及び教育研究・国際交流奨励事業を実施し琉球大学を支援してきましたが、沖縄県における経済状況や低金利政策等により、支援資金の調達が困難になり事業支援が先細りの状態になりつつあります。琉球大学の開学 70 周年を機に、地域、同窓生、大学教職員から寄附を集め、これまで行ってきた琉球大学への支援事業をより充実させ拡大していくよう整備します。また、この 70 周年記念事業を琉球大学の教育・研究活動の活性化につなげるだけでなく、沖縄県の地域社会の発展に貢献する事業とします。

4 . 記念式典及び記念誌の発行

600 万円

記念式典

200 万円

平成 32(2020)年は、琉球諸島初の高等教育機関として開学した琉球大学の 70 周年に当たり、古稀を迎えることとなりました。この間、昭和 47(1972)年には琉球政府から国への移管、さらに平成 16(2004)年には国立大学が法人化されました。この大きな節目の時に当たり、琉球大学の 70 年の変遷・歴史を振り返るとともに琉球大学の意義と重要性を再認識し、一層の発展を期するため開学記念日に記念式典を執り行います。

70 周年記念誌の発行

400 万円

琉球大学は、開学当初からユニークな歴史を有し、これまでに 50 周年記念誌、60 周年記念誌を発行することによって、琉球大学のあゆみを記録して参りました。70 周年記念誌は、60 周年以降の琉球大学の発展や伸展など新しい出来事について追記し、未来へ継承していく記念誌といたします。

5 . キャンパス環境整備事業

1,500 万円

誰もが安全かつ安心して行動できる環境の整備は、特に教育の場では重要です。雨天でも安心して移動できるよう屋根付きの障がい者等用駐車場の整備を行います。

また、大学に関係している学生や教職員だけでなく地域の人々も散策できる空間を提供し、大学と地域住民との交流の場を創るため、門を整備し、亜熱帯植物の散歩道を整備します。